

妙教寺だより

第51号

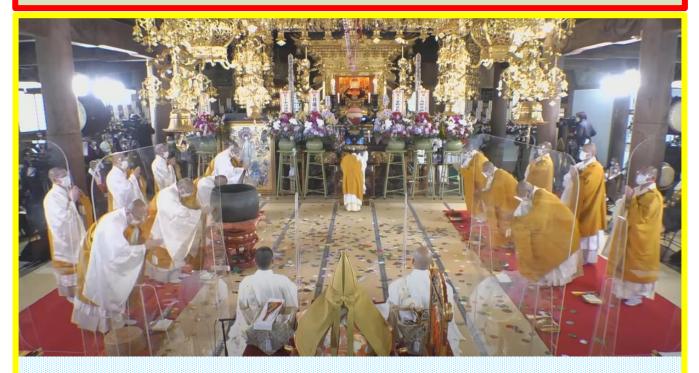
令和3年8月



合 一

日蓮大聖人御降誕八百年

慶讚記念大法要



令和三年二月十六日 大本山小湊誕生寺(千葉県鴨川市小湊)に於て 大導師:日蓮宗管長 菅野日彰猊下

コロナウイルス感染拡大防止の為、法要の様子はインターネット動画配信された。

日蓮大聖人のおことば 26

『妙一尼御前御返事』

諸 釈 命 お 南 な n すてざるがごとく、 を信 迦 をすつるがごとく、 無 l な 夫 天善神 れざるがごとくに、 く候。 れ、 财 むがごとく、 多宝 心 法 とは 等に 蓮 信 華 • 妻 心と申 経 申 信 + の おとこ ይ 方 l を 唱 すは 候 の 入 おとこの妻に 諸 子の母に 充 な n ŋ 别 奉 法 親 たてま 仏菩薩 **(** 大) 'n 華 の子 には 経 て、 は を を ح

弘

安三年

世

寿五十

九

歳

の中でも、

「渇仰恋慕の

を強調しています。

現代語訳

菩薩、 + 迦 とはいうのである。 唱えすることを、信心 に信ずる心を捧げて、 母のもとから離 親が子を捨てず、子が に命を捨てるように、 夫を愛し、夫が妻の為 るわけではない。妻が うものは、別にこれと 南無妙法蓮華経とお 上界の善い神々など いように、法華経と釈 いう難しいことがあ 方の全てのみ仏や 牟尼仏と多宝 そもそも、 そして諸々の天 信心とい 仏と れ な

す。 あり方を「渇仰恋慕の信心このような純朴な信心の い。肉親を大切に思うのいうのは特別な事では 紙の中で日蓮は、「信心と 九 といったりしますが、 ある」と語りかけたの と、それを信心と申すので 法蓮華経とお唱えするこ や諸々の仏を信じ、南無妙 同じ思いをもって法華経 鎌倉在住の女性でありま まで法華経信仰を貫いた、 さんいる中にあって、 ていく弟子や檀那がたく 迫害に耐え切れず棄教 書です。宛先人の められた、妙一尼宛て 日蓮聖人は「上野殿御返 歳 弘安三年、日蓮聖人五 肉親を大切に思うの その妙一尼に宛てた手 の時 に身延 でし 妙 一尼は っです。 最後 \mathcal{O} な 返

め、 顔立ちと姿 す)※みめかたち(見目形) する信仰心を持つことで 付けるように、法華経に対 になったら薬に頼るよう い人を見たいように、 欲しがるように、また恋し え」(飢えた時に食べ物を求 法華 経には信心 をいたさせ給 にしろいものを 付 くるがごとく、 がごとく、※みめかたちよき 人べ たきがごとく、病に薬をたのむ を慕ふがごとく、恋ひて人を見 かつへて食をねがひ、渇して水 美しい人が紅や白粉を のどが渇いた時に水を 病気

となり、生きて再び鎌

倉

面山奥之院ホ

ムページより

延入山」より)

文永

法華経

年三月、

佐渡配流

赦

义

日蓮聖人御

代 記



甲斐の波木井実 長 の好意を 受け入れて、身延へ向かう 日蓮聖人の一行

回目 歳)、鎌倉を去り六月十七 かれずんば、即ちこれを逃れ 容れる所とならず、「止みな 四月八日になされた第三 帰られた聖人が、その年 日身延に入山されました。 人の例にならって文永十 (方便品)、「三たび諫めて聴 年五月十二日(五十三 (礼記曲礼) 止みなん、また説くべからず \mathcal{O} 国家諌暁も幕府 の 如く、 古聖

参考文献

は、

身延山久遠寺の守護神

います。「七面大明神」

当 初

たいと思います。

天女・七面様とも呼ば

れ

7

いてお話し

てま

V)

七面大明神」

は、

七

面

として信仰されてま

した

れ

ていた日蓮聖人は、

今の

身延のご草庵に

. 住

ま

わ

○日蓮聖人御一代記画 ○ダイヤモンド 鎌倉新書 浜島典彦監修 み解く」 「日蓮宗信行教典」 社 一日蓮を

法華経を守護する神とし

日蓮宗寺院で祀られ

お

0) あ

る房総

方を拝

され

てはご両

親

を偲

日蓮宗が広まるにつれ、

思親

閣

が

あ

る身延

Ш

Ш

頂

によく登られ、亡き父母

 \mathcal{O}

ようになりました。

七面大明神(七面天女)

身延山内に勧請されてると言われる

それでは、 七 面大明 個人様より画像を提供 神

時、 心 1 法をされていました。 蓮聖人は、ご信者方に る大きな石に座られ 伝えられ にこの ました。 山の道すがら、 (写真) 人の妙齢 ています。 年 お 話 と呼ば 九 を 月 \mathcal{O} 聴 \mathcal{O} 婦 こと 聞 れ 今 Ш が熱 その 7 お \mathcal{O} て 頂 説 高 7 日 11 カ

をはじ な 7 であろうか」と、 い方であるが、 いました。 「このあたりで た \Diamond 達 緒に は Š 波木井 お は 供を か 体 見 だれ か L 公 < け

せてあげなさい」といわれま 不 気がつかれると、その 日蓮聖人は、 あなたの本当の姿を皆に 12 が不思議に思っているの かって、「そなたの姿 思って ご信 る 気 者方 持 見 5 \mathcal{O} 婦 を

て感激しました。

うと思っていましたが、

Ш

12

は が

登 5

5 日

て

は

お

V)

ま 面

蓮 れ

聖

人

は

せ

を現じ、「私は七面 た婦人は、たちまち龍 今まで美し 水差しの水を一 日蓮 **ます**」と答えられまし 人に落としまし 七面大明神です。 お水を少し賜りとう存じ 婦 聖 人 一人は は 笑みをたたえて、 傍らに い姿を 滴、 た。 山に住 して あ その婦 すると 0 の姿

す。 空高く姿を消 ぎと満足を与えます」と言 その苦しみを除き心の安ら お題目を唱える者を守護し、 を修行し南無妙法蓮華経 て、 い終えるや、七面 身延山の裏鬼門をおさえ 末法の時代に、 身延の山 を守ってい してい Ш 法華 一の方に 経 ま 0

た り Þ そ は、 \mathcal{O} 場 この光景を目 随 喜 居 \mathcal{O} 合 涙を流 わ せ \mathcal{O} 当 た

に、

つか七

面

Ш

に

登

0 \mathcal{O}

7 間

日 蓮

聖

一人は、

ご在

世

七

面

大

明

が神を

お

祀

り

L

七面天女の信仰 日蓮聖人御一代記画より

説法された (身延山妙石坊)

高座石:日蓮聖人が此の石に座られ

ために、 うか、 師孝第 たとい 登られまし は出家して日円)らと共に 七 日朗上人は波木井公 話をされてい 六年目に、 は道 面 七 お弟 で、 大 面山に登りた に、この 日蓮聖人ご入滅 明 なき山 子 日朗上人一 はじめて七 ħ と仰 さ 神 お弟子の てい た。 をお λ であ が 達 当 時 ま Щ 0) 祀 れ に いりと す。 りま 中で ŋ で 行は 7 何 登 面 \mathcal{O} (当 する 七 後 L 度 5 Ш L 面 お ŧ ょ 尾 た れ

なお石 が 大きな石 まれたところ、 面 の上に、 現 Ш こし が に登るとそこに あ ŋ, 日 七 朗 この その 面 大明 大き 前 神 で

行をお迎えになりました。



影嚮石:七面大明神が此の石の上で 日朗上人一行を迎えられた

一人は、 (ようごうせ この 大きな

祀り を結 うのみや)と名付けられ お 石を影嚮石 H と名付け、 朗上 んで七面 「影嚮宮」(ようご 大明神を その前に ま お 祠

盆前大掃除に参加された 臼井筆頭総代 (右側)

会社

での行動が

変

ように感じます。

でし

ようか?学校、

家族、

混

乱

 \mathcal{O}

中

どうお過ご

災

害

 \mathcal{O}

中

で

大きな不

安 染

型

コ

口

ナウ

1

ル

ス

感

症

新

護持会会長·筆頭 臼 井 総代 光

謝 ください \mathcal{O} 申 行 事・ 上げます。 事業活動にご協 まし 7 心 ょ り 力

昨 年より始 ま 0 た

暑中お見舞い

七

九月十九日のことで

開

永仁五年

九

これが

面

山奥之

. 院

 \mathcal{O}

皆様 並 び 妙 には、 教 寺 元寇園教会の数 護持会 -素より 檀 妙 信 教 徒 寺 \mathcal{O}

奥之院となりました。

わたって改築され

七

面

Ш

後に社殿は

何

口

か

に

アフター \supset 口 ナ の 世

を否定 先 コ フタ う 月 口 番 ス ナ ĺ テレ 組 前 \mathcal{O} ガブリ 口 ビで哲学者 中 物 ナ 口 エ \hat{O} \mathcal{O} 世 世 世彼 ル \mathcal{O}

早い仕事より確実な仕事。 技術と信用の

(有)日

建

〒811-2108 福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘 4-3-9

TEL 092-932-7397

経 が 0 を生かす時代にな は て な 感じます。 (1)日 精 徳を考える時 11 Þ ま 精 神 信 神、 に 仰 た。 ŧ L 3 繋な 7 まさに 個 ١, が る 代、 々 るよ る \mathcal{O} 法 と語 我 能 2 力 華 う Þ

法 菙 経 の教えがある

慈悲、温がます。 う::。 るも ませ お てあ 釈 解 教え、 「すべての生きと 泇 デミッ 決 コ ん。 り \mathcal{O} 様 \mathcal{O} 口 が幸せ ます。 温がし 見 が ナ 法華経の教え 全て カン 今後も 通 クは 感 説 染 カン L \mathcal{O} Oあ 続く が れ 症 気持 私 Ł 世 れ た最 た は 達に . 界 \mathcal{O} で 0 今 لح ち 的 生 を が 高 L な 対 は て な 懐だし あ パ ょ \mathcal{O} お お

初 心 に 還 る

南無妙

す。

にした 様に想 たの く法 行 あ 社 におかれましても、 \mathcal{O} 行 りません 動 会 私 ですから、 度 を f, に 華 1 築 移 初 いと思い を見直 を寄せ、 心 ĺ V \mathcal{O} か。 教えに \mathcal{O} 平 7 還 お . 和 す 行こう その 、ます。 り、 盆 切 で 自 を機 教え 健 出 0 分自 せ 掛 で 康 会 皆様 0 を な は 0

護と人 終決 t L う、その時まで皆様方 ル 下さい。 何いス 今回 分注意され 時 す $^{\circ}\mathcal{O}$ か る時 類 世 \mathcal{O} は、 新 \mathcal{O} 界 英 的 型 が ご神仏 知 日 来 な コ る 蔓 に Þ 口 を ょ ナ で 延 \mathcal{O} ウ に 危 お L 0 渦 は ょ 加 機 イ

暑中お見舞い

申し上げます

ば大丈夫です。 心の不安、 が法蓮芸 \mathcal{O} ワ 華経 混 ク 乱 チ よく効きま 恐 が 怖 あ に n は ます。 ス ル たと先 安を感じております。 ス 私

は、

毎

月

コ

口

ナ

ウ

1

感

染

や災

害

 \mathcal{O}

ユ

の見え

な

日

Þ

ま

せせ

 λ

か、

お伺

申

し 上

一げ

皆

様

方

お

変わ

りござ

1

法

華

経

婦人会会長

そ

ような中でも、

足

を

運

び

御

宝

前

に

向

植 村 德

心

中

が

5

着

<

 \mathcal{O}

は

何

手を合う

わ

せ

る

لح

な

ぜ

かか

故

で \mathcal{O}

L

)よう、

きっ

とお

寺



結ばれる植村会長(中央)

致 頂

7

おり

ýます。

7

る

カ

5

だ

感

昨年の寒修行にて法界定印を

先

祖

様

方

が

安

心

7

諸

天

善

神

様

を

は

ľ

 \otimes

家

お

経

が

唱

え

5

n

仏

祖

上 御

人

様

方

に

ょ

ŋ

早

朝

ょ

り

住

職

上

人

を

は

ľ

め

各

お \mathcal{O}

御妙 判を拝 読 て

に 読 野 日 唱えする) 候 土 迷うを凡 夫という。これを というも 蓮 聖 させ 殿 わ これを悟るを仏という。これ 日 ず。 後 Þ \mathcal{O} 家 人御 ただ 我らが 7 尼 お 地 頂 0) 妙 勤 御 獄というも外には 中で一 判の中 返 8 7 事 胸 お お の間 緒 り に 経 \mathcal{O} ま を に す 浄 上 拝 お あ

るは ま 獄 法 す。 即 華 法 寂 経 華 を 光 経 ح 持 なり。 ち奉るもの ŋ もししからば とあ は V) 地

そ よう 害 で るとま \mathcal{O} ナ 起こ を ウ 0 ょ 近 で心 う 年、 中 テ イ で さ る に ル 世 が痛みま も私どもに 大 ピ 梅 ス \mathcal{O} < 等 規 雨 \mathcal{O} 中 地 模 蔓 \mathcal{O} 末 は 獄 報 な 期 延 す。 新 絵 自 道 12 Þ 型 然 义 各 は で 毎 コ 見 幸 災 地 年 \mathcal{O} 口

過 唱 題 さ 光 n 11 にも え 目 と悟るべ を 7 お経 ることは、 心 お 1 学べるお寺 ま 唱 ると \mathcal{O} 修 え (法華経) < 思 行 す 道 る 1 に 地 筋 日 励 獄 み を を Þ 層 即 恵 お 寂 ま お 示

症 の 終決を祈る

暑中

お見舞い

申し上げます

日 ŧ 早 11 コ 口 ナ 感 染

檀

信

徒

 \mathcal{O}

皆

様

に

お

n \mathcal{O}

7

は、

か

カン

息 カ

 \mathcal{O} 下さ 終 無妙法蓮華経 様 れ 息を祈 方 ŧ) ŧ 気 ま を お って せ 身 0 け 体 お 7 に n は お ŧ 過 < す れ

松尾 勝 次

一昨年の檀信徒総会で報告 される松尾会長 ます。 5

れ

ること

を

願

0

7

た

だだ

き

日

Þ

生

活

ことと存じ れ 見 ル た ス え 感 な 日 常 染 1 を 拡 新)ます。 送 大 型 5 \mathcal{O} コ 口 れ ナ 制 ウ 限 い さ 1

断を され るようですが、 お 策 ても ま 7 施 お ŋ 餓 \mathcal{O} \mathcal{O} 昨 íます。 諸 ります。 許 年 7 た方も増え 4 鬼 環として、 さな ŧ にて 会等で感染防 行 よりお寺 事 < ワクチン 執 れ 1 皆様 月 祈 状 ぐ り まだまだ れ 況 7 行 様 お に 祷 き ŧ 接 わ が お 続 お て 止 か 種 n 妆 n 予 を 様 月 11 11

念大法要延 期

日 \mathcal{O} 正 革 本 当 大 年 聖 H 月 を 御 + お 迎 降 六 日 え 誕 12 宗 た 百 相 年

■本店

₹819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4 TEL(092)807-0500 FAX(092)807-0501

■川端店

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 1F (博多リバレイン1F) TEL (092) 271-0456 FAX(092)271-0464

㈱梅谷仏具店は屋号を新たに"うめたに"として再出発いたしました。 今後共変わらぬご愛顧宜しくお願い申し上げます。



仏壇仏具·神社仏閣総合企画

されて 況 コ ました。 二月に延期 合わせ、 ました。当山におか を踏まえ来年令 口 も二月 ナウイ おりま 記念大法要が \mathcal{O} (予定) ルスの感染 お らしたが 施 餓 となり 和四 鬼 ñ 新 会 予定 ま 状 型 年 L

南 蓮 1 \mathcal{O} 記念大法要をお迎えし、 檀 と思っております 誠 無妙法蓮華経 大聖人様への報恩感 信 信行会におきまして を捧 徒 の皆様と共に慶讃 げさせて頂 きた ŧ, 謝 日

> 会も、 寇園 た毎 た。 て頂きました。 ての協賛参加 みにて行われ、 家族と少人数 続き担任の英典上人のご なっております志賀 て中止とさせて頂きま \mathcal{O} コ 為 口 楽しみに 教会主 年六月に 上 ナ 感染防止 クウイ 半 期 催 \mathcal{O} ル しておりま 恒例行· 活 ス は見送らせ のご有志 \mathcal{O} 信行会とし の為昨年 芋苗 感 動 染 は 島 事 植 す 防 \mathcal{O} え 元 止

染状 をご確 げ 寺 様 ら進 職上 てお 皆様におかれましては、 シます。 ま 今後の信 からの すようご案内 人ともご 況を鑑みながら ります 8) 再開 認 頂 行会 きご参 \mathcal{O} 月行事 L で檀 相 たいと考え 活動 談 信 申 加 0) L 案内 £ なが 下さ 徒 御 住 お 咸 \mathcal{O}

信

行会活動

報告

لح べ

宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇

车

慶讃記念事業について

事業担当長

・第二期事業について

工事以外の事業

宗祖 八〇 日蓮大聖人御降 〇年 (五回目支払済み 報恩慶 讃 勧 誕

今後予定されている事業

八〇 宗祖日蓮大聖人御降誕 法要奉行 〇年報恩慶讃大 (令和) 四年二

月予定)

徒弟教育の支援 (未定) 板芳名簿制作 慶讃志納金・志納者銅 (令和)

宗祖御降誕八〇〇年 慶讚記念事業委員会

りますが、

残念ながら新型

扨、

信行会活動報告であ

信行会活動自粛

臼井 義光

慶讃記念事業委員会よりお知らせ

本年、令和3年(2021 800 の祥当日をお迎え致しました。よって當山の宗祖御降誕 思いますので、檀信徒の皆様の御協力・御 支援を頂きますよう、宜しくお願い申し

宗祖日蓮大聖人御降誕 800 年慶讃記念事業委員会

教

元寇園 函教会担 任

英

中 ·お 申見 り上げる舞い Ī

異型 染拡 だ新 者 えてきているも \Diamond 府 て開催されております。 東 ピック 京 は 開 都 おり、一定の効果は 大が終わらな 型 強い \mathcal{O} オリンピック・ 催 (デルタ株) 見切り発車」で希 ワ 市 コ を危惧され インド も紆 巻 クチン接 口 色を中 ナウイ 余曲 \mathcal{O} の感染な 心 由 \mathcal{O} 7 来 種 ル 折 7 中、 **、ラリ** ス 増 感染 を を 7 \mathcal{O} 見 進 望 感 政 経 た 未

ております。

íます。

は 定

コ

口

ナ

感染

状況

が

1

7

る

を

って

合掌

(日) には秋

 \mathcal{O}

収穫祭を予

しておりま

す。

その

頃

感染 ております。去る六月六日 元寇 そのような状況を踏まえ、 (日) には恒 嵐 対策を |教会の しながら 行事・ 例行 事 活 \mathcal{O} 行 動 丰 0

(1)

集は行わず、寺族と少人数年も昨年同様一般参加募 品種は ており の 有 ました。 あずま」を八百 とさせて頂きまし したが、感染対策の 志 まし 「鳴門金時 の方での苗 来る十一月十 たが本年は 本植えてみ 」を植 た。 植 為、 例年 匹 紅 本 え

4

故

障に

伴う食器

乾

燥

機

購入(

と -和三年 たします。 活 動 上 に 半 ついてご報告 期 \mathcal{O} 事 業

事 業 ح 7

- \mathcal{O} 参 伐 道 採 (業者依 Ш 側 斜 面 類) \mathcal{O} 雑 2/21 木 箬
- 2 資 材 桜 プ等) 購入 (5/1) 甘 木植 (鉄パイプ・クラン え付けに伴う

苗植え会」をさせて

頂

きま

- 3 芋苗 並に JA ょ 肥料類購入(志賀島 <u>n</u> (紅あずま八百 6/7 本
- (5)老 り 下 A 鋼 ンニング依頼 のものを の屋根、現在 朽化に伴う本 $\widehat{7}$ 板 月末) 6/18 . (T) 葺き替 ガ (株) ア リバ \mathcal{O} 堂 板 リウ え工 横 金造 廊

活 動 ح し

て

- (1)毎 日 月 施 + 餓 七 鬼 目·二十三 会 日 は
- 2 3 御御 $\mathcal{C}_{\mathcal{C}}$ 恒 教寺 による庭木の剪定作業 に 玉 例 日に合わせて、元、 6/6 行 総 事、芋苗植え会並 ね 代 ぎ二百玉 \mathcal{O} 的野善追 収 穫 様 妙
- 4 様 桜 樹 より寄 の苗木(剪定業者、 (5月~6月) 贈) 30 本 \mathcal{O} 原 植
- (5) 寺族、有志による盆前 草 掃 取り(除 並 びに芋畑 7/23 内 \mathcal{O} 雑 大

な 志 垢 追 \mathcal{O} わ 草 今 が \mathcal{O} を は 5 ΙIX 方 れ な 流 \mathcal{O} り • る毎日ですが 汗 時 < Þ 는 _ \mathcal{O} 菩 単 期 草取り等に日 力を な は 緒 る 行 広 美 12 お 1 で 借 あ 化 心 境 ご有 身 内 る 作 り \mathcal{O} Þ 地

元寇園スナップ写真

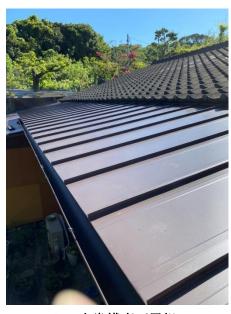
和いえ とを自覚 かな雰囲気がなお話れ んでおります。 お題目をお 気をしまり \mathcal{O} 中なとでが共 取ら



(17日・23日御日に合わせて) 庭木の剪定をされる的野善追様



2/21 参道山斜面の雑木伐採の様子





8/1 本堂横廊下屋根 ガリバリウム鋼板へ 葺き替え工事終了



取りをして頂いたご有志方7/23 猛暑の中、芋畑の草

よる芋苗植え作業6/6 寺族・有志の方々に

護持会・婦人会より会費納入の案内

◆護持会費◆

♡婦人会費♡

月額 1,000円

-年間 2,400円

一年間 12,000円

会費納入はいつでも受付けています。 問合せ 092 (581) 1266

信行会より

†

お数珠

2

は

仏事作法(お数珠について

大学。 大学。 は、とも書き、西暦二~ いわれています。もともと念いわれています。もともと念いわれています。もともと念語の数を数える『数とり』の道語の数を数える『数とり』の道語の数を数える『ない方にといわれています。もともと念いわれています。もともとのが得られるという大切な法が得られるという大切な法が得られるという大切な法が得られるという大切な法が得られるという大切な法が得られるという大切な法が得られるという大切な法が得られるという大切な法が表がいる。

、数珠の種類

て(導師房)、白水晶で作られ装束数珠は房が広がってい装束数珠は房が広がってい数珠(普通仕立)があります。数珠には装束数珠と勤行



侶が使う数珠です。 東がありますが、どちらも僧珠で仕立てられた長連の半装



菊 房

(修法師)が用いる数珠です。 房は、ご 祈祷 を する 僧 侶 房は、ご 祈祷 を する 僧 侶 との短房、少し長い中房、長 さの短房、少し長い中房、長 また、房の長さは普通の長

二、珠の材料

しょう。自然木や木の実などが良いでただし、檀信徒の数珠は、

三、珠の数

普通の珠 一〇八個小さな珠(四天珠)四個大きな珠(親珠) 二個

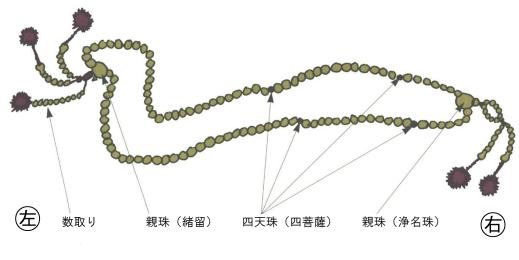
合計一一四個(両脇の数取り等の子珠は含みません)

四、珠の名前

を表しています。小さな珠の珠といい、右の親珠を弾っところか親珠は数珠を留めるところか親珠は数珠を留めるところか親珠は数珠を留めるところかまがといい、右の親珠を浄名であるところがまります。

部分は四天珠といい、上行

お数珠の名称



菩薩を表しています。また、無辺行・浄行・安立行の四

五、持ち方

です。
だかれるでは、お経本を持つのに便利に掛けて持ちます。合掌をしに掛けて持ちます。合掌をしにがなる。

事もあります。
二重にして左手首に掛ける
時や歩く場合には、数珠を
また、法華和讚を奉詠する

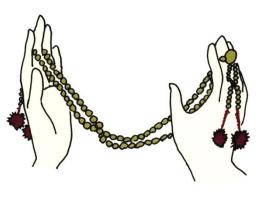
第一関節に、数珠を一度ね参りのうちで最も大切なと参りのうちで最も大切なときには、親珠を両方の中指の

まま両手を自然に合わせまま両手を自然に合わせま

「右手」み・ぎ

「左手」ひ・だ・り = 二本(二つ房)

=三本(三つ房)



はやめましょう。
数珠をこすって音を出しなと覚えると良いでしょう。

六、合掌のすがた

ときの空いた手は太股の上に

また、片手で太鼓をたたく

おくよう指導してください。

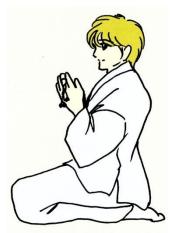
じってから(あやにする)その

「掌」は「たなごころ」、つまり合掌は手のひらを隙間ならわせることです。両手を合わせることです。両手をいことを示し、一心に祈るいことを示し、一心に祈るいことを示し、一心に祈るいことを示し、一心に対している



るといわれています。 (神聖) 左手は不浄(凡夫)を表します。この二つの心が表します。この二つの心があるとによって、のます。この二つの心があるといわれています。

のます。
りません。お経本は両手で持けますが、これは合掌ではあ合掌の姿をしている人を見か



【日蓮宗の数珠】



勤行数珠(一般)

装束数珠(僧侶)

があって違いますので、代表 宗派によっていろいろと特徴 的なものをご紹介いたします。 ★お数珠とひと口でいっても



の大切な行為です。この供養

香りを供養することは仏教

には三種類あります。

◇塗香・・・・香を塗り身体を

◇華香・・・・生花をまいて供 する 養する

◇焼香・・・・香を焚いて供養

浄める

に、中国からもたらされ、最 日本へは六世紀の奈良時代

手のひらを水平に上に向けて 耳につける数珠は手のひらに 乗せるように

いきました。 ※一般は心を込めて一回 ※導師が三回(仏法僧の におい消しとして一般化して 香)のようなもので、からだの 意味) 【焼香の回数】

お焼香の回数と線香の本数

については お焼香の回数や線香の本数

IJ

焼香のしかた

(一本)◇亡くなった霊が 回・・◇すべての祈りを

◇一心不乱の意味を 迷わぬよう こめて

(三本)◇「仏・法・僧」の三宝 三回・・◇「過去・現在・未来」 の三世諸仏

◇「御本尊•日蓮聖人 先祖」供養

寝かせる)

に帰依

初は抹香(粉末)や煉香(合 え、心をこめることでしょう。 に対して「香」を奉げるのか考 など、いわれておりますが するのが常識です。 大勢の場合は一回(一本)に 一番大事なことはいったい何 また、周りの状況を判断し、

■各宗派の回数と本数

◇焼香の回数

日蓮宗=導師は三回、 般は 口

真言系・浄土宗=三回 禅宗系•

◇線香の本数 浄土真宗大谷派 口

浄土宗· 日蓮宗•真言系=三本

浄土真宗大谷派=二本

((浄土真宗はお線香を立てずに横に 浄土真宗本願寺派は 本

「すじゃあた第二巻参照」

當山におけるコロナウイルス感染対策について

- ◆行事等での職員(寺族・僧侶)並びに受付役員方のマスク装着・手洗い・アルコール消毒
- ◆本堂玄関・庫裡出入口の消毒液設置
- ◆必要に応じ参拝者の検温
- ◆行事(祈祷祭・施餓鬼会)での法要中の参拝者の無着座・ 無着席のお願いと本堂の換気

尚、當山においては寺への無参拝のお願いは致しておりません。通常時の参拝、 行事(祈祷祭・施餓鬼会等)の当日のご参拝は各自のご判断にてご自由に行っ てください。今後につきましては感染状況又、自治体の指導等を踏まえながら 毎月発送させて頂いております行事案内にてお知らせいたしますので必ずご 確認の上ご参拝いただきますようお願い申し上げます。





お疲れさまでした。感染対策をとりながらのご奉仕 盆前大掃除

編集部より



4/11 釈尊降誕会花まつり 本年も三密を避けて花御堂 に変わりオアシスで花園を 作りました



月施餓鬼供養会 6/27 無参詣者での法要の様子





または、体験談や疑問・容はお寺の行事について 妙教寺だより編集部で 質問などよろしくお は、皆様からの投稿を、 募集致しております。 内 人と人

人と空間の調和



株式会社 アイプランニング

〒811-1313 福岡市南区日佐3-32-11

TEL/FAX 092-210-6183

建設業全般 2×4住宅

公共工事 2×4輸入住宅

令和3年寺行事予定(9月~1月)

0

月 28

5 30

日(火~木)

◎1月1日(土)

初参詣祝禱会

午前1時より

・正月飾付け準備

◎8月1日(第1日曜)

月例祈祷祭 午前十時より

◎8月6~15日(金~日) 盂蘭盆棚経廻り

◎8月22日(第4日曜) 早朝より

◎9月5日(第1日曜 盂蘭盆施餓鬼供養会 午後1時より

月例祈祷祭

◎9月19日(第3日曜 午前10時より

各家勧請守護神祭

秋季彼岸施餓鬼供養会

◎9月20~26日(月~日) 午後1時より

秋季彼岸棚経廻り 早朝より

0 10月3日(第1日曜) 月例祈祷祭

0 10月10日(第2日曜) 宗祖お会式桜花つくり 午前9時より 午前 10 時より

0 ·月祈祷祭 月施餓鬼供養会 午後1時より

11月7日(第1日曜)

◎11月28日(第4日曜)

·月施餓鬼供養会

12月5日(第1日曜) 午後1時より

◎1月23日(第4日曜)

午後1時より

寒修行会(婦人会主催

10時より

0

午前10時より

·二沢清正公堂大掃除 午後より

※行事予定日·時

間は、

変更させ

午前9時より

◎12月19日(第3日曜

·年末総供養施餓鬼会 信行会主催特別講演

◎12月27日(第4月曜) 午後1時より (未定)

・正月お供えの為の餅つき 午前8時より

◎10月17日(第3日曜)

・宗祖日蓮大聖人お会式

◎1月1日~3日(土~月)

新春三ヶ日一部経読誦会

午前10時より

・開運星祭り

新春福引き大会

·年頭施餓鬼供養会

·月祈祷祭

◎12月12日(第2日曜)

・年末煤払い大掃除

認下さい。

事前に発送します案内でご確 て頂くことがありますので、

日程変更のお知らせ 総会資料にて9月の施餓

会 (彼岸会・守護神祭)を9 合上9/19に変更しました。 ましたが、彼岸棚経廻りの都 26に予定して記載しており 鬼

◎1月10日(成人の日)

午前8時より

各家勧請守護神祭

加入者募集》 ≪御霊屋・納骨堂

○近代的格調高い

○耐久性にすぐれる

○御先祖様をおまつりするのに 相応しい荘厳な佇まい

・時払い不可能な方は、分割払い制度をご利用下さい。 又は護持会事務局までお問い合わせ下さい。

092--581 1266

大野城市錦町二丁目一番二七号 発 行 春日山 所 〇九二 (五八一) 一二六六 妙 非 教 売

品